

しずおか平和の風

No.87
2022年7月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8

TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
peacecity1854@gmail.com
ホームページ
https://shizuoka-shi-heiwa-iinkai.jimdofree.com



“誘蛾灯”と民意の間

佐藤 博明

7月の参議院議員選挙は、投票日2日前の8日、奈良市で街頭演説中の安倍元首相が、白昼銃撃され死亡するという異様な雰囲気の中で行われた。相手が個人であれ国家であれ、理由の如何を問わず、暴力をもってこれを攻撃・抹殺する行為は到底許されない。それは、安倍氏の場合も、ウクライナに軍事侵攻し、破壊と殺戮をほしうまにしたロシアの場合も同じである。

日本の憲政史上、首相や政府要人が暗殺された事件は、大正10年の原敬や昭和5年の浜口雄幸、そして5・15事件の犬養毅、2・26事件の高橋是清などが多い。とくに、昭和に入ってから政治家の殺害は大正デモクラシーの崩壊と共に、諸政党が翼賛政治に雪崩を打ち、以後この国を軍国主義へと引き込み、国民を戦争に駆り立て、ついに破滅に導いた、軍事独裁・全



ハンナ・アーレント (1906-1975)

7月の参議院議員選挙は、投票日2日前の8日、奈良市で街頭演説中の安倍元首相が、白昼銃撃され死亡するという異様な雰囲気の中で行われた。相手が個人であれ国家であれ、理由の如何を問わず、暴力をもってこれを攻撃・抹殺する行為は到底許されない。それは、安倍氏の場合も、ウクライナに軍事侵攻し、破壊と殺戮をほしうまにしたロシアの場合も同じである。

「暴力は、権力が危うくなると現れる」。かつて、ナチスの迫害を逃れてアメリカに亡命したユダヤ人哲学者ハンナ・アーレントの言葉である。『全体主義の起原』や『人間の条件』を著わしたアーレントは、1961年、ユダヤ人の「最終解決」（行政的大虐殺を指揮した最高責任者・アイヒマンの裁判を傍聴し、終始、「上から言われたことをしただけ」と、無罪を主張し続けた彼を、「思考の欠如」・無思想によってもたらされた「悪の凡庸」とし、「無知は罪となりうる」と断じた。そして、人間は「考えることを止めたとき、人間でなくなり」、思考をもたない人は「自覚のない悪へと変化する」と言い、思考停止は全体主義への道を許すことになるとした。

7月10日の開票結果は、安倍銃撃・死亡を伝え、安倍政治を一斉に礼賛するメディアの質問記事もあって、自民党が改選議席55を大きく上回る63議席を獲得して大勝した。自民党・岸田政権は、安倍以来の「一強支配

”をさらに盤石のものとし、連立与党の公明党とあわせて、改憲提案可能な3分の2を超える政治勢力となった。その岸田政権は、昨秋、「新しい資本主義」を看板に登場した。しかし、それも「成長あつての分配」へとたちまち変調し、「経済安保」を旗印に、「人」「科学技術・イノベーション」「スタートアップ」「デジタル」を重点施策とした。10日の選挙結果は、現時点での可視化された「民意」ではあるが、それは、この間の市場原理を駆動力とする経済政策の下で深刻化した、人々の生活不安や閉塞状況の現実とは裏腹に、心理的にはむしろ「同調圧力」や付度、「積極的追従」と政治的無関心が広がる中で、重要な政治選

択では「変化」や「革新」ではなく、何となく「無難」な、現状維持に甘んじる漠然とした「民意」を背景としたものといえよう。今、この国を覆っているのは、アーレントのいう、自ら「考えることを止めた」、政治的支配と誘導が容易な人々の群れのようなものである。そこに見えるのは、「走光性」の昆虫を誘引し、用意した捕虫装置でこれからめ取る「誘蛾灯」の光景である。アイヒマンの「凡庸」はもとより、あくまで色調不鮮明な「光源」に惑わされて、自らと社会の進むべき道を誤り、70数年前の、この国の形への回帰を許してはならない。

る中で、重要な政治選

ドライブに合う音楽は

つむじ風

改憲勢力が伸長した参議院選挙の結果は残念だがちょっと一息。

私は会社員時代、そして、退職後も自動車に乗る機会が多く、音源はテープ、MD、CDと時とともに変わったがカーステレオに親しんだ。

何を聴くの？なぜかアメリカのB・ディラン、サイモン&ガーファンクル、イーグルスなどである。そして、クラシックではバッハ、モーツァルトだが、最近はハイドンに凝っている。勿論ビートルズは好きだがなぜか運転には合わなかった。なぜだろうか？素人の愚説を一言。

イギリスはアメリカのような車社会ではないし、確かビートルズのメンバーも日常は車には慣れ親しんでいなかったと思う。一方、アメリカ人は子供のころから自動車に慣れ親しみ乗り、運転をしていた。その自動車エンジンのレシプロ・往復運動の振動、音などが身体になじみ感覚的に音楽にも反映したと思う。また、クラシック音楽には変異しながら繰り返しが多いのもそれと共通点があるのではと推測される。どうだろうか？

すると、自動運転・電気自動車に乗り換えたらカーステレオの音楽はかわるのだろうか？と妻に問うと、「いや、あなたがそういう曲が好きだけじゃないの」とのこと。
富田 家一郎

安倍元首相銃撃事件から見えてくるもの～宮 秀雄～



▽安倍元首相銃撃犯の動機は「統一教会」への恨みで、政治的な背景ではなかった。大手メディアは権力への付度、怯え、自己規制から

「特定の宗教団体」としてその名を伏せた。選挙後には一斉にその名を報じた。実に巧妙なメディアコントロールだ。▽「社会が戦争に向かう危険な兆候」として昨年亡くなった半藤一利氏はいくつか挙げていた。

①被害者意識と反発が国民に煽られる②言論が不自由になり、権力によるメディア統制③ナショナリズムが強調される④教育が国粹主義に変わる⑤監視体制の強化等々。戦争体制は一日にしてならず。周到に準備され着々と進行する。安倍政権以後その動き、流れは加速。ロシアのウクライナ侵略戦争や戦前の日本やナチスドイツの歴史が教えてくれる。▽京都アニメ放火事件等のように生活の困窮で人生に絶望して他人を道ずれにしての犯行が続出している。小泉、安倍政権と続く新自由主義Ⅱ「自己責任論」の強調、労働法制改悪と社会保障と福祉切り下げの一方、格差拡大と貧困の連鎖は進行し、社会格差は拡大。未来に希望が持てない若者や貧困層からのテロがこれからも起こるかも。▽徴兵制になんか日本がなるはずはない、若者達が本気で抵抗、反対運動をするだろう、と樂觀できるだろうか？現実としてアメリカは「経済的徴兵制」になっている。権力のデマゴギーに騙されず主権者意識を高める教育と個人の孤独、孤立を防ぐ（包摂）ためにも共助、公助を大切に社会的構築がこれからの課題だと思う。

核兵器禁止条約第1回締約国会議と 原水爆禁止2022年世界大会

核兵器禁止条約第一回締約国会議が6月21日から23日まで3日間にわたってウイーンで開催され、オプザバーバーとして、NATO加盟国ドイツ・ベルギーやアメリカの同盟国のオーストラリアなども参加していました。日本原



原水爆禁止 2022年世界大会

【被爆者とともに核兵器のない後世で平和な世界を - 人類と地球の未来のために】

- 8/4 開会総会
- 8/4~5 国際会議
- 8/6 世界大会【ヒロシマデー集会】
- 8/9 世界大会【ナガサキデー集会】

いまこそ

水協からは土田弥生事務局次長と川田忠明担当常任理事が参加をしました。核抑止論を明確に批判した「ウイーン宣言」と条約の具体化へ向けた50項目の「ウイーン行動計画」が採択されました。日本政府は6月20日の人道的影響に関する会議には出席したものの、締約国会議にはオプザバーバーとしてさえ参加しませんでした。この間、6月9日に日本原水協は外務省に日本政府も参加するよう要請をおこない、政府が不参加を決めた翌日16日には抗議の談話を発表しました。次回は2023年11月27日から12月1日まで、ニューヨークの国連本部で開催されます。

締約国会議では、核兵器禁止条約がNPTを補完するものであること、特に核軍備撤廃の第6条の履行を補完することが強調されました。締約国会議に集まった力で、核保有国に対し、NPT再検討会議で、第6条の義務と核兵器を無くすとの合意の履行を迫る大きな圧力を加えようとしています。中満泉(なかみつゐみ)国連上級代表は、この情勢のもと、何があってもNPT再検討会議は8月に開くと決意を述べました。

同じ時期に3年ぶりに広島・長崎で開かれる原水爆禁止2022年世界大会では「いまこそ核兵器を無くせ」の強力なメッセージを発信しなければなりません。世界の大きな期待が寄せられています。多くの人たちが結集して世界にアピールをしましょう。(海野 順二)

「ロシアによるウクライナ侵攻の背景」

～ 講演を聞いて ～ 合戸 政治

7月16日、標記の講演を市内「あざれあ」で聞いた。主催は現代日本ゼミナール。講師は、静岡県立大学国際関係学研究所の准教授の浜由樹子さん。

今ウクライナ問題は人々の関心が高く、今日の講演会も盛況だった。浜先生の今回の講演の大きな特長は、ロシア・プーチン側から見たウクライナ問題という視点をもつてい

ることだった。もちろん浜先生は、自身冒頭でことわっているようにロシアの味方をしてい

ウクライナの中立化(非軍事化)とは

NATOの東方拡大への脅威からきている。NATOの東方拡大は、ロシアから見れば米国が約束を破ったということだ。1990年には、米国とソ連の間で、当時の統一ドイツ領から「1インチたりとも拡大しない」(当時の米国のベーカー国務長官)と口約束したという証言が残っている。しかしその後、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアなど中東欧諸国やバルカン半島諸国が加盟し、16か国から30か国に拡大している。プーチンは「外交は文書にしなければ意味がない」と度々口にする。

そもそも、NATO(北大西洋条約機構)は、ソビエト連邦などワルシャワ条約に対抗する軍事同盟である。冷戦が終結し、ワルシャワ条約機構は解体したのに、NATOだけが存続するのはおかしいという言い分も成り立つだろう。

「非ナチ化」のこだわりについて

ソ連にとつて、第2次大戦は、「大祖国戦争」と称する反ファシズム戦争であった。2600万人、2700万人ともいわれる世界最多の犠牲者を出して勝利した。これは、ロシア人にとつても誇りとして受け継がれている。ところが、ウクライ



7月16日、アザレアでの講演会

ナでは、ソ連をナチ・ドイツと同等の占領者とみなしたり、ナチ協力者たちの名誉回復を進める空気すらある。また、ドンバス地方でロシア系住民を虐殺しているのも新たに出現した「ネオナチ」だというのである。これに対し、プーチンのいう「非ナチ化」は、反ファシズムのロシア人の記憶を呼び覚まし、団結させる要素として利用していると解釈できる。以上、ロシア側から見た今度の戦争の意味の一端である。

平和の動き7～9月



7月

29日(金) 9の日行動 青葉前 12:30

8～9月

4～6日(木～土) 原水爆禁止世界大会・広島
5～7日(金～日) 平和を願う市民のつどい
アイセル21

6日(金) 核禁条約サイン署名 12:00 東急前

9日(火) 9の日行動 青葉前 12:00

19日(金) オール静岡アクション 17:30 青葉前

29日(金) 9の日行動 青葉前 12:30

8月29日(月)～9月6日(火)

104号越え訓練監視行動 東富士基地